



みちくさ

2015. 7. 22 No. 8

無言館

長野県上田市の別所温泉近くに、塩田平というところがあります。少し山道を上ると、ひっそりとその美術館はありました。建物はコンクリート壁で特に飾り立てているわけでもなく、小さな教会のような雰囲気をもっています。この美術館は「無言館」といい、窪島誠一郎さんという方が、私財をなげうってつくった美術館です。ここには戦没画学生たちの作品がたくさん収蔵されて



おります。将来の芸術家を夢見て、志半ばで戦地に散っていった若い学生たちの作品ばかりです。戦争にさえとられなければ、将来は日本の芸術界を豊かにしていたかもしれなかった才能溢れる学生たち。彼らの無念の思いを、残された絵画や彫刻が静かに訴えておりました。

ある裸婦像の絵に次のような解説が書かれてありました。

「あと5分、あと10分、この絵を描き続けていたい。外では出征兵士を送る日の丸の小旗がふられていた。生きて帰ってきたら必ずこの絵の続きを描くから……。モデルを務めてくれた恋人にそう言い残して戦地に発った。しかし彼は帰って来ることはできなかった。」

このように未完成の作品もたくさんありました。戦地から家族に送った手紙や、使い古した絵筆なども展示されています。窪島さんは、このような戦没画学生たちの家族を一軒一軒訪ね、長い時間をかけて作品を集めたのです。傷んだ絵を信州の美術館へ持ち帰ってくるたび、彼らの絵が50年間もの間、ずっと社会から忘れられていたことへの哀しみが胸を浸したそうです。そんな思いの底には、戦争中に窪島さんを苦勞して育ててくれた養父母への慚愧の念があったということです。窪島さんにも、別なドラマがあったようです。

信州に行く機会があれば、もう一度訪ねてみたいと思う美術館です。

ちょっと前にあった戦争

私の生まれた秋田市土崎というところは、実は終戦前夜、日本で最後に爆撃を受けた場所として知られております。日本石油の備蓄基地があったところで、8月14日の夜10時半頃から明け方の3

時頃まで、港周辺を中心に B29 による集中爆撃を受けました。夜間の爆撃でもあったので、石油基地だけではなく、周辺の住宅地にもそれは及んでしまいました。死者が 250 名を超える惨事となりました。当時の土崎小学校では、12 名の子どもたちの尊い命が失われています。

戦争の話となると、ずっと昔のここのように思いますが、実は私が生まれるほんの 10 年前にあった出来事です。さすがに物心ついた頃には、その惨状の跡も残ってはいませんでした。友人の母から、当時の様子を聞かせてもらったことがありました。昭和生まれの私たちにとって、戦争は遠い昔の出来事ではありません。でもどんどん忘れられていくような気がします。やはり語り継いでいくことが大事だと痛感します。

広島や長崎にあった出来事や終戦のことなども、ぜひ子どもたちにも関心をもってもらいたいのですが、夏休み期間にかかるので、本日の集会のテーマとしました。平和を考える一つのきっかけとなればと考え、アーサー・ビナードさんの「さがしています」（童心社）という絵本を取り上げ、子どもたちに語りかけてみました。本の帯に書かれたものを以下にご紹介します。

「おはよう」「がんばれ」「いただきます」「いってきます」「ただいま」「あそぼ」

そのことばをかわすことのできる、みんなの生活は、どこへいったのか？1945 年 8 月 6 日の朝、ウランの核分裂がヒロシマでひきおこしたことは、どこまで広がるのか？ピカドンを経験したカタリベたちは、今の日本をじっと見つめているのだ。その視線の向こうにあるのは？

夏の記憶

五感を通して記憶している子どもの頃の思い出というものがあります。プールの中に潜った時にこもって聞こえた周りの子どもたちの笑い声とか、昼寝をしている枕元に漂ってくる蚊取り線香の匂いとか、五感を刺激されることで一瞬のうちに昔の思い出がよみがえってくることがあります。



ビニールの浮き輪の栓を抜いた時の匂いとか、扇風機に向かって声を出しながら、ランニングシャツの汗が引けていく感覚とか…それこそ挙げたらきりがありません。

夏休みになると、母方の祖父母のところへ行くのが楽しみでした。屋敷が昔の城下町の中にあり、周りにはうっそうと杉の大木が茂って、近くには大きな川もありました。いとこがたくさん集まって、セミとりをしたり、大きなスイカを割ってみんなで食べたりしました。遊び疲れては昼寝をし、夕方になり祖母が玄関に打ち水をまく頃には一面にヒグラシの音が響いておりました。

40 年以上も経っているのに、こんな情景が今でもまざまざと思い出されます。

休み中は子どもたちも、いろいろと出かける機会が多くなると思います。親子で楽しい思い出づくりをして欲しいのはもちろんですが、旅先で見つけた史跡や文化など、たくさん見聞を広めて欲しいと思います。